

令和4年度健康保険組合全国大会が 開催されました!

－健康保険法制定100年－ これからも健康を支え、皆保険を守る健康保険組合であるために



令和4年度の健康保険組合全国大会が10月18日、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催されました。新型コロナウイルス感染状況を考慮して、昨年度に引き続き、参加人数や開催時間の規模を縮小するなど感染対策を徹底して実施する対面形式に加え、オンライン視聴も可能なハイブリッド形式で実施し、会場への来場およびオンライン視聴をあわせて約3,000名の健保組合関係者が参加しました。

2022年は健康保険法制定から100年となる節目の年です。一方、団塊の世代が後期高齢者に入り始める年でもあり、本年が医療保険制度の大きな分岐点となります。

急速な高齢化と現役世代の減少は、日本の社会保障制度全体に大きな影響を及ぼしています。医療保険制度も例外ではなく、医療の高度化等とも相俟って高齢者医療費の急増による現役世代の更なる負担増が確実です。

健保組合は長きに亘り、加入者と事業主の理解と協力によって、自主・自立の精神のもと、加入者の健康を守り、ひいては世界でも優れた制度と評される皆保険制度を守り抜いてきました。しかし、厳しい財政運営を強いられてきた結果、止むなく解散を選択せざるを得ない健保組合も少なくなく、このままでは支える側と支えられる側が共倒れる皆保険制度の崩壊が現実のものとなります。

国民の健康を守り、安心の基盤である皆保険制度の持続性を高めるためには、過重な現役世代の負担を軽減し、負担能力に応じて全世代で支え合う制度に転換する必要があります。「2025年問題」が迫るなか、10月から施行された一定所得以上の後期高齢者の自己負担2割導入は改革の第一歩に過ぎず、早期に更なる改革に踏み出さなければなりません。

同時に、コロナ禍により顕著となった医療提供体制の脆弱性への対応も急務です。

国民が身近で安心できる「かかりつけ医」を持ち、入院・外来医療や病院・診療所の機能分化・連携を一層強化することで、安全・安心で効果的・効率的な医療体制を実現するとともに、医療の重点化・効率化の観点から、保険給付範囲の見直しやフィル処方普及、フォーミュラの導入を進めるべきです。

また、デジタル化社会に対応した医療・介護分野のICT化を進め、医療の効率化・質を高める施策も欠かせません。まずは、情報共有の基盤となるオンライン資格確認システムの普及・拡大を進めるとともに、医療・介護情報を活用して患者・利用者へのメリットを高め、医療費の適正化に資する取り組みも確実に進めるべきです。

我々健保組合は、これまでも労使の連携のもと様々な保健事業を実践し、また、医療費適正化の取り組みを積極的に進め、優れた保険者機能を最大限発揮してきました。この100年間で果たしてきた価値を再認識し、今後も加入者の健康を守るという想いのもとに、データヘルスやコラボヘルス等を推進して、国民全体の健康寿命の延伸に向けて取り組んでいきます。

これからの100年も加入者にとって最も近い存在でその健康を支え、皆保険制度を守る健保組合であるために我々は組織の総意をもってここに決議します。

- 一. 現役世代の負担軽減、全世代で支え合う制度への転換
- 一. 国民が身近で信頼できる「かかりつけ医」の推進
- 一. オンライン資格確認などICT化の推進による医療の効率化・質の向上
- 一. 健康寿命の延伸に向けた保健事業の更なる推進